

2018年度の廃棄物の最終処分量および再資源化率に関するフォローアップ調査結果

1. 削減目標

当会では、1996年に「日本ゴム工業会環境保全に関する自主行動計画」を制定しましたが、このうち循環型経済社会の構築に関して、以下の目標を設定し、実現に取り組んでいます。

ゴム製品製造工場から発生する廃棄物について、減量化、再資源化、適正処理を推進し、最終処分量を2001年度の実績をベースにして、2020年度までに95%以上削減する。また、資源循環の質を高める取組として2020年度における廃棄物の再資源化率70%以上を目標に取り組む。

2. 新ゴム消費量およびカバー率の推移

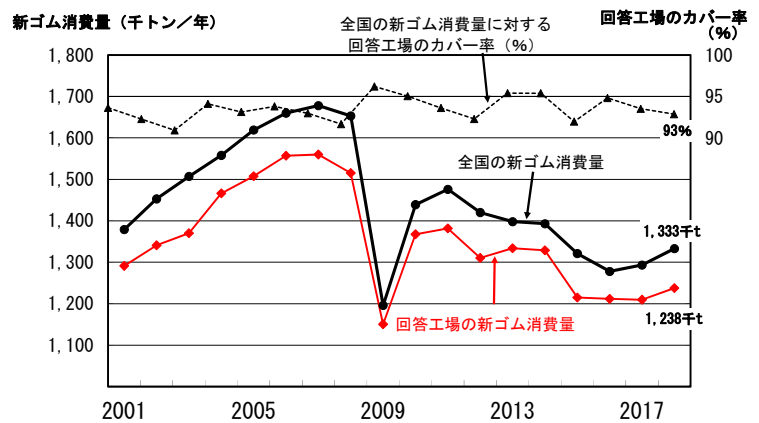
回答工場の新ゴム消費量を基に全国の新ゴム消費量に対するカバー率を算出し、全国推計値として補正しています。2018年度のカバー率は93%となりました。

	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
調査回答工場数	156	149	133	133	140	139	139	146	144
回答工場の新ゴム消費量(千ト)	1,291	1,341	1,370	1,466	1,508	1,557	1,560	1,515	1,151
新ゴム消費量(千ト)※	1,379	1,453	1,507	1,558	1,619	1,660	1,678	1,653	1,196
新ゴム消費量から見た回答工場のカバー率	94%	92%	91%	94%	93%	94%	93%	92%	96%

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
調査回答工場数	129	136	139	130	139	139	141	138	130
回答工場の新ゴム消費量(千ト)	1,367	1,382	1,310	1,334	1,329	1,215	1,212	1,210	1,238
新ゴム消費量(千ト)※	1,439	1,476	1,420	1,398	1,393	1,321	1,278	1,293	1,333
新ゴム消費量から見た回答工場のカバー率	95%	94%	92%	95%	95%	92%	95%	94%	93%

※全国の新ゴム消費量は、2000年度までは経済産業省の生産動態統計、2001年度以降は当会策定の「新ゴム消費量」(1~12月)を採用している。

※2017年度の回答工場の新ゴム消費量に修正があった。

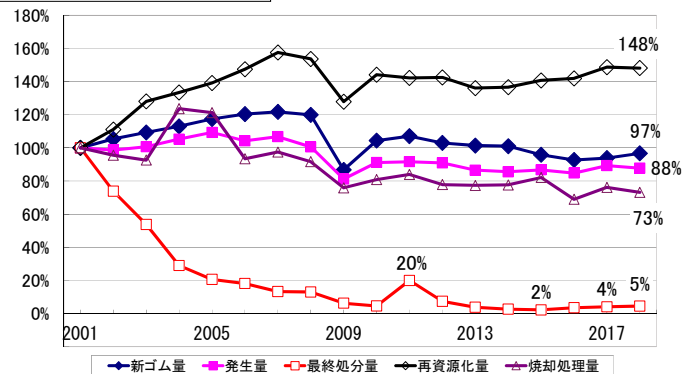


3. 廃棄物の発生量および処理方法別処理量の推移

(単位: ト/年度)

	発生量	最終処分量	焼却処理量	再資源化量	売却量
2001年度	230,963	46,198	75,477	109,829	25,635
2002年度	227,854	34,112	72,107	121,977	29,784
2003年度	232,491	24,840	69,910	140,576	27,040
2004年度	243,192	13,404	93,327	146,497	35,451
2005年度	252,426	9,531	91,503	152,826	38,785
2006年度	240,680	8,411	70,514	161,889	42,698
2007年度	246,459	6,150	73,563	173,015	44,033
2008年度	232,235	6,037	69,185	168,730	39,833
2009年度	187,554	2,908	57,266	140,379	32,931
2010年度	207,740	2,115	60,236	158,253	38,023
2011年度	211,690	9,241	63,385	156,154	40,997
2012年度	209,968	3,436	58,751	156,471	40,255
2013年度	199,815	1,775	58,386	149,381	43,413
2014年度	197,628	1,247	58,590	149,996	44,750
2015年度	200,208	1,045	61,992	154,530	43,689
2016年度	195,796	1,644	52,058	155,826	42,411
2017年度	206,201	1,896	57,483	163,287	44,889
2018年度	202,668	2,103	55,242	162,665	49,030
2001年度と比べた増減	▲12.3%	▲95.4%	▲26.8%	48.1%	91.3%

2001年度を100とした場合の推移



注)

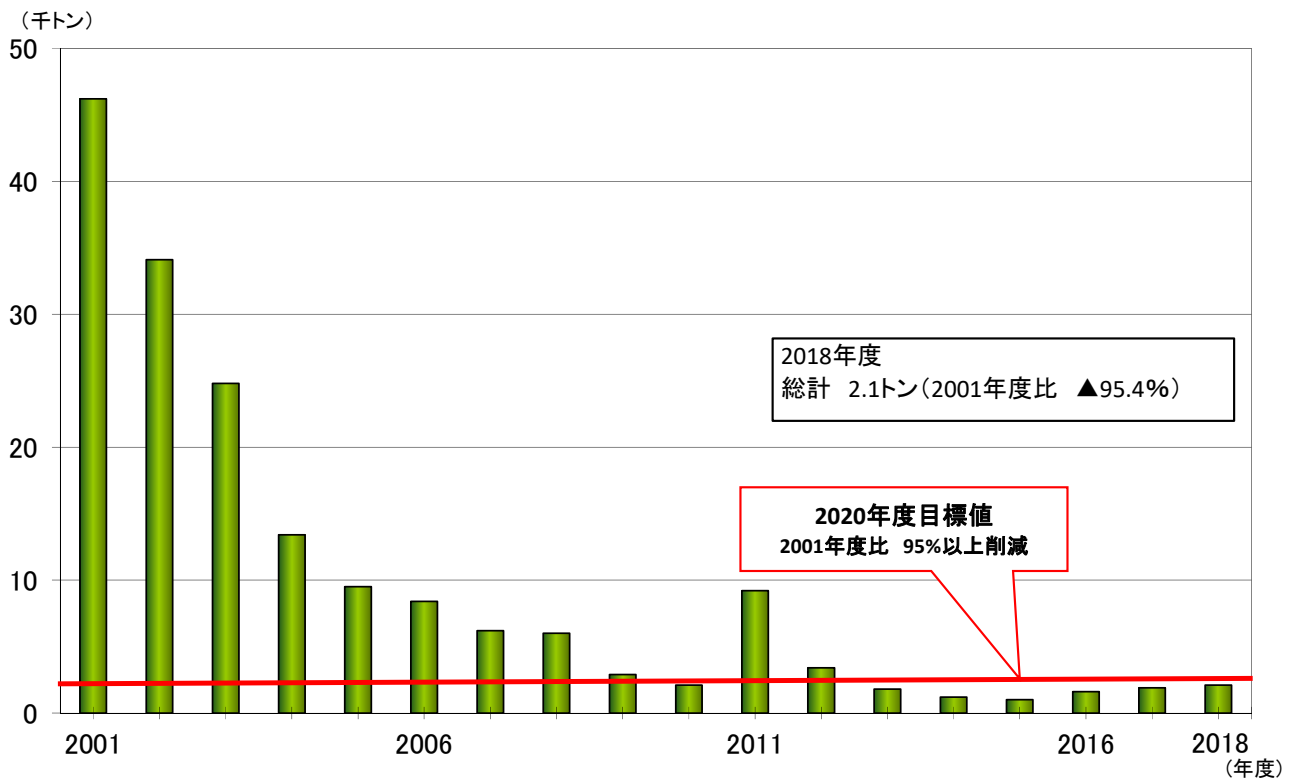
- ①発生量…ゴム製品製造工場から発生した廃棄物量(製品廃棄物を含む)。
- ②最終処分量…廃棄物を直接最終処分した量および自社で焼却等の中間処理をした後の残渣を最終処分した量の総量。
- ③再資源化量…廃棄物を再資源化した量および自社または外部で中間処理した後の残渣を再資源化した量の総量(定義に基づき再集計しています)。
- ④焼却処理量…廃棄物について、自社または外部業者に委託して焼却をした量。
- ⑤発生量等の数値は、ゴム工業会会員企業を対象に行った調査結果を新ゴム消費量に基づくカバー率で補正し、全国値として推計している。
- ⑥最終処分量について、2011~2014年度にかけて震災の影響があった(影響を除いた最終処分量は2001年度比で、それぞれ2011年度▲97.1%、2012年度▲97.4%、2013年度▲97.5%、2014年度▲97.8%となる)が、2015年度以降はなかった。

4. 最終処分量の推移

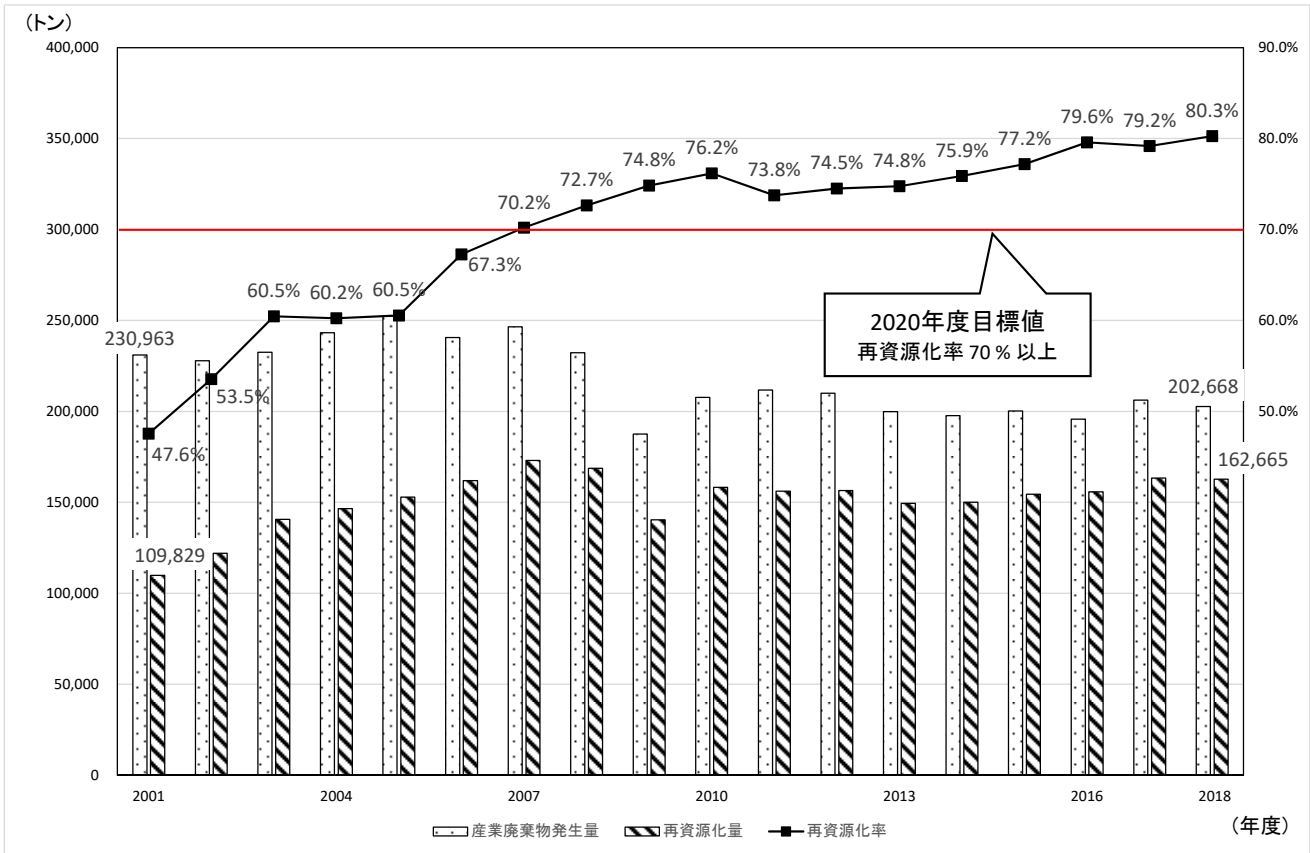
単位:トン

年度	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
最終処分量	46,198	34,112	24,840	13,404	9,531	8,411	6,150	6,037	2,908
対2001年度比	-	▲26.2%	▲46.2%	▲71.0%	▲79.4%	▲81.8%	▲86.7%	▲86.9%	▲93.7%

年度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
最終処分量	2,115	9,241	3,436	1,775	1,247	1,045	1,644	1,896	2,103
対2001年度比	▲95.4%	▲80.0%	▲92.6%	▲96.2%	▲97.3%	▲97.7%	▲96.4%	▲95.9%	▲95.4%



5. 再資源化率の推移



再資源化率 = 再資源化量 / 産業廃棄物発生量

6. まとめ

- ① 全国の新ゴム消費量[※]は 1,333 千トン（前年度比+3.1%）、回答工場分の新ゴム消費量は 1,238 千トン（同+2.3%）と共に増加し、カバー率は 93%となりました。
- ② 廃棄物発生量は、202,668 トン（前年度比-1.7%）と減少しました。
最終処分量は、2,103 トン（前年度比+10.9%）、2001 年度に対し、95.4%の削減（前年度比+0.5pt）となりました。中国等の廃プラスチック類の輸入規制により再資源化量が減少した影響で最終処分量が増加しました。
- ③ 廃棄物発生量に占める再資源化量は 162,665 トンで再資源化率は 80.3%となりました。
この結果、2018 年度は最終処分量削減率、再資源化率ともに 2020 年度の目標を達成しましたが、引き続き、目標に向けて活動を推進していきます。

※ 日本ゴム工業会策定の「新ゴム消費量」による。